

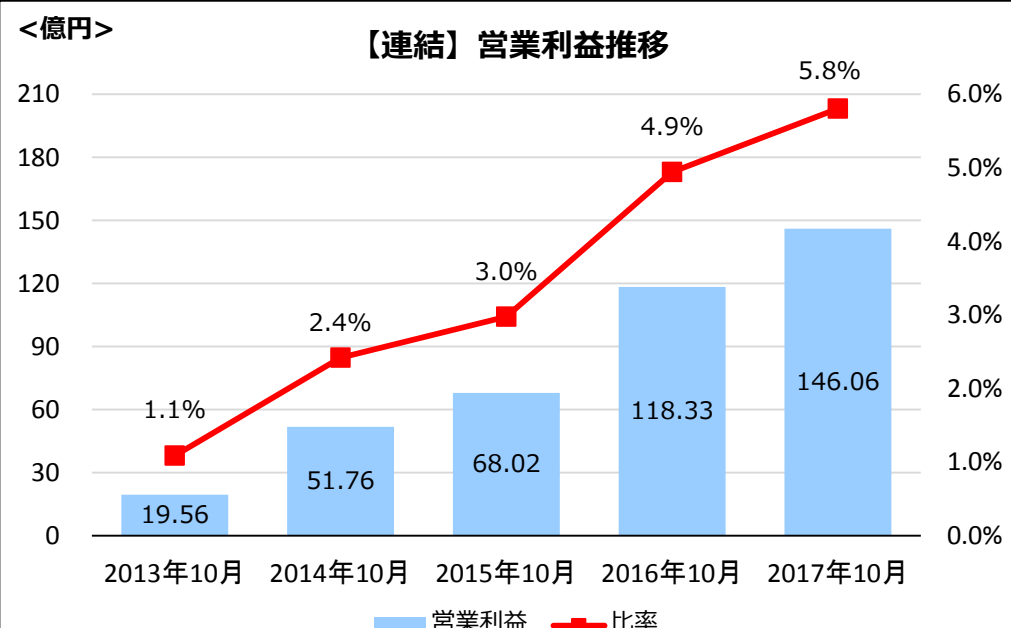
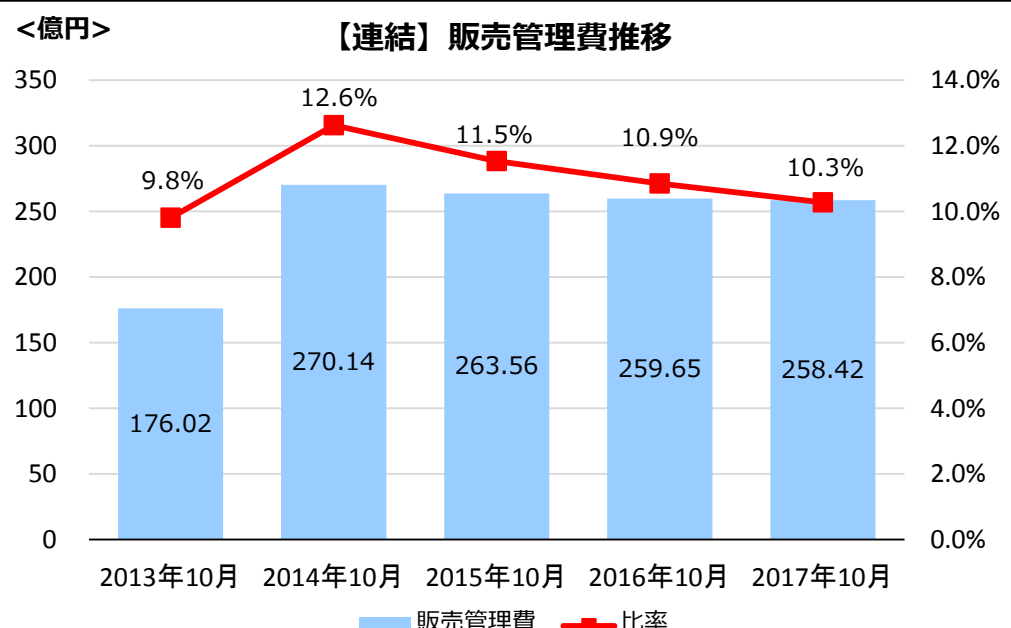
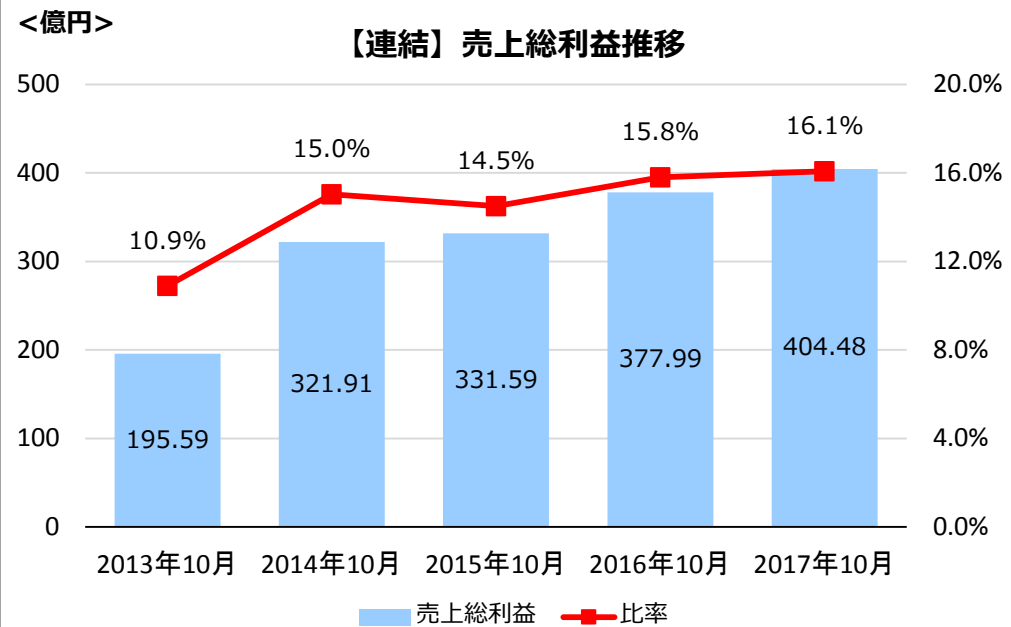
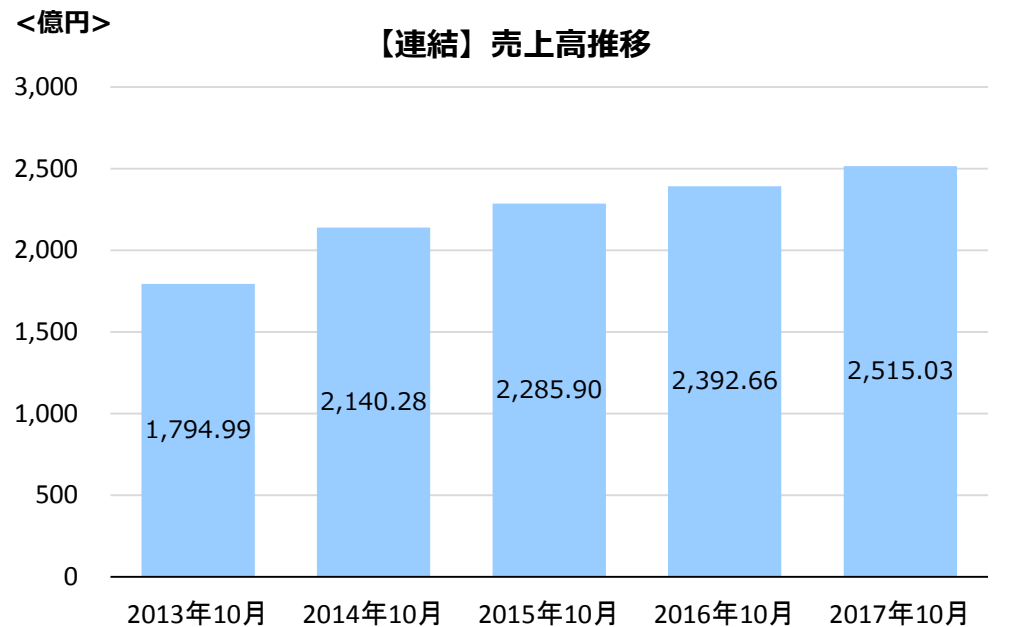
決算説明資料

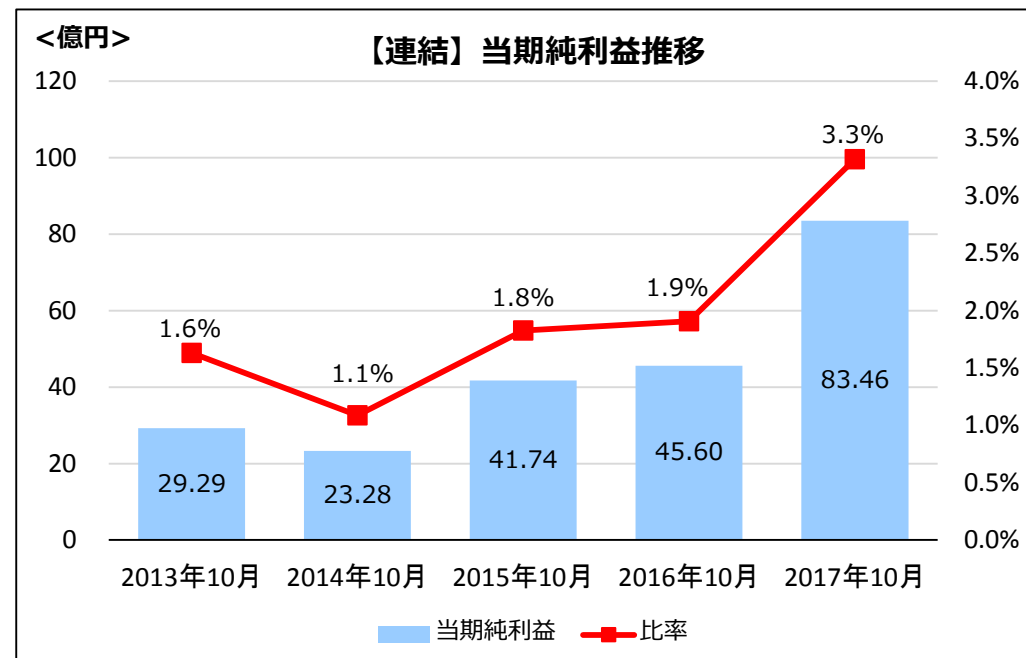
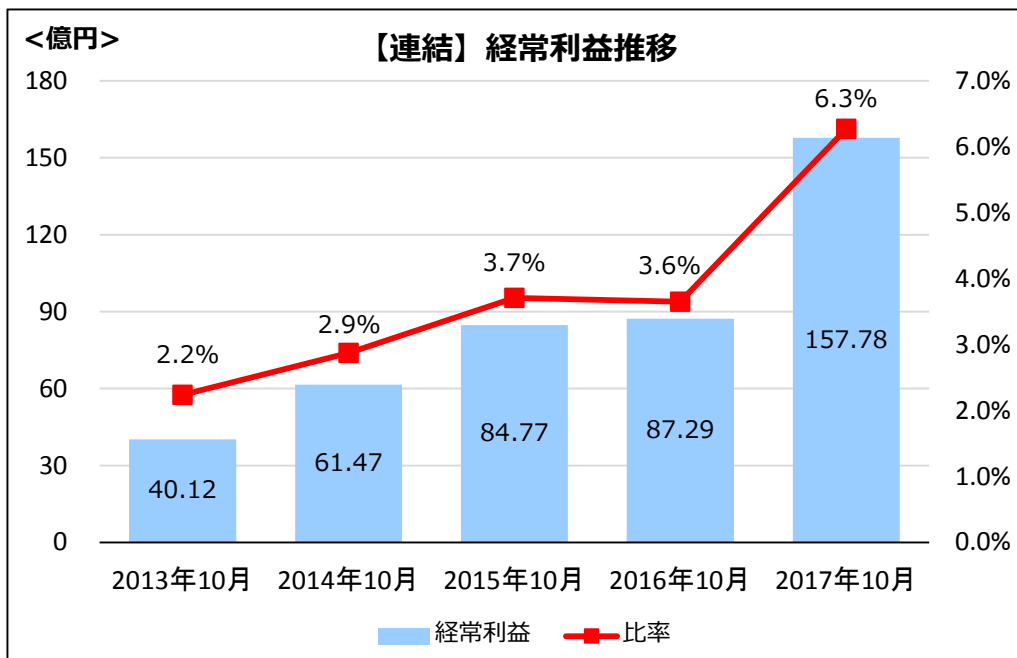
2017年12月



神戸物産
KOBE BUSSAN CO., LTD.

●業績ハイライト	1
●株主還元策	6
●神戸物産グループの概要	7
●神戸物産グループの第一次産業・第二次産業	8
●神戸物産グループの第三次産業	
・業務スーパー	9
・ガレオン	12
・神戸クック	13
・クックイノベーション	14
●エコ再生エネルギー事業	15
●掲載メディア紹介	17
●2018年10月期予想・中期経営計画	18

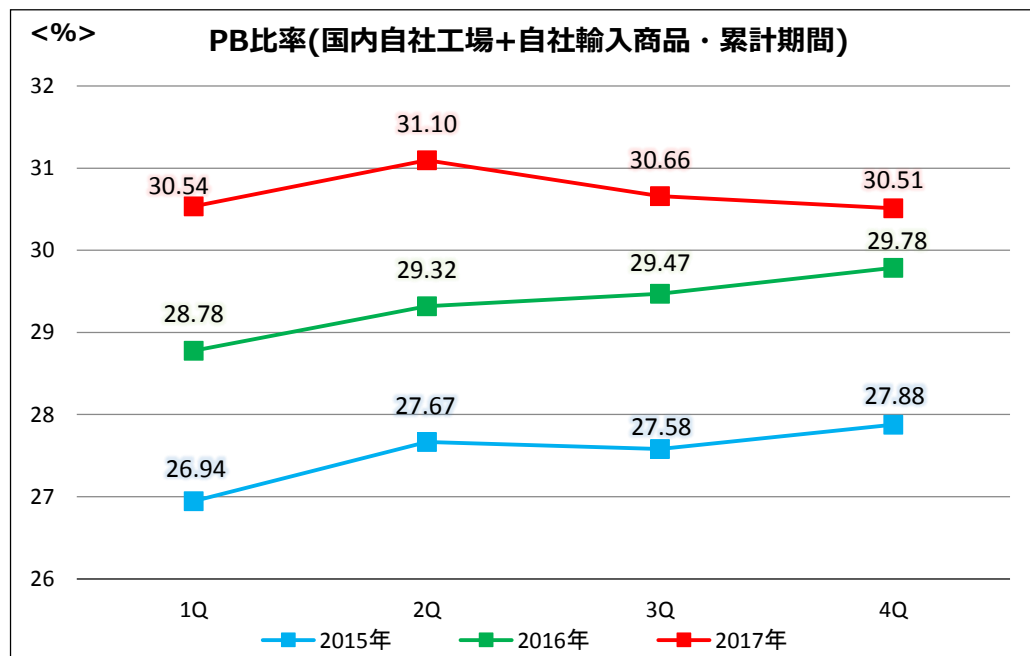
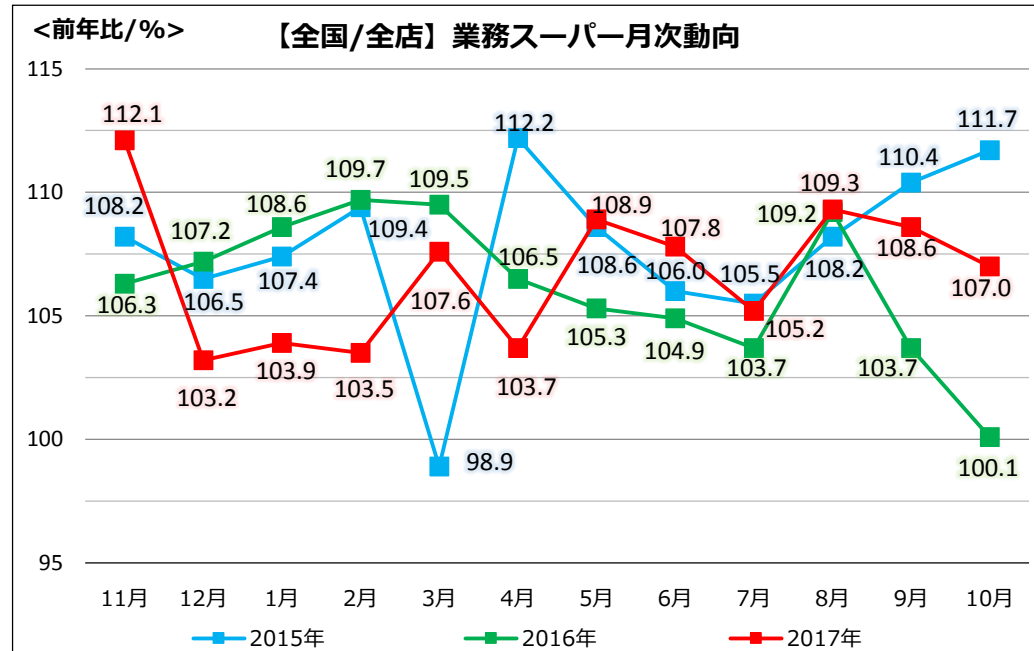
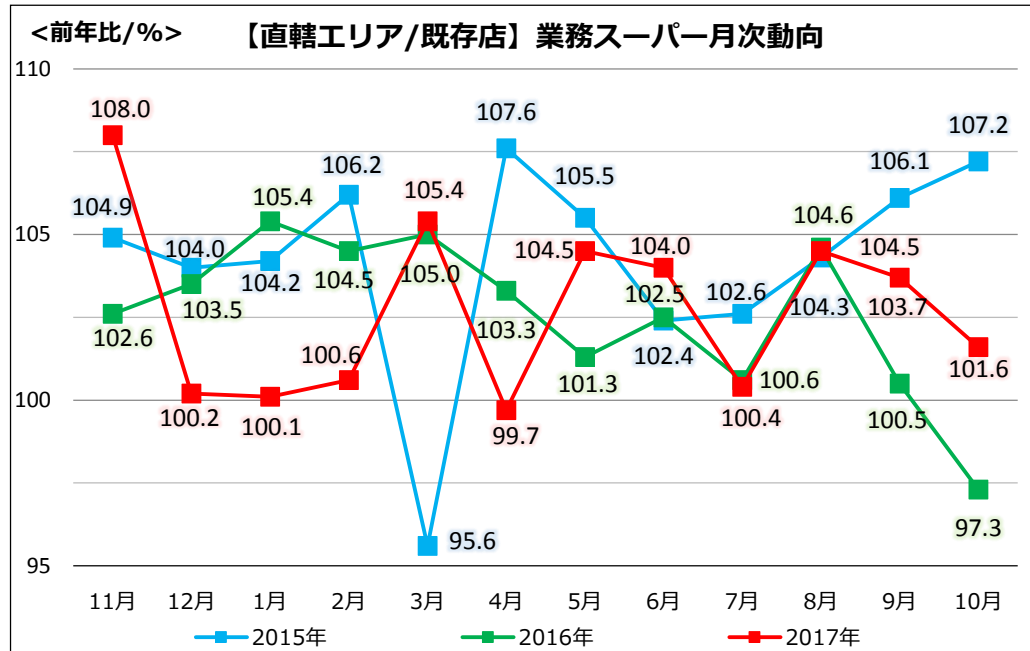




予実対比

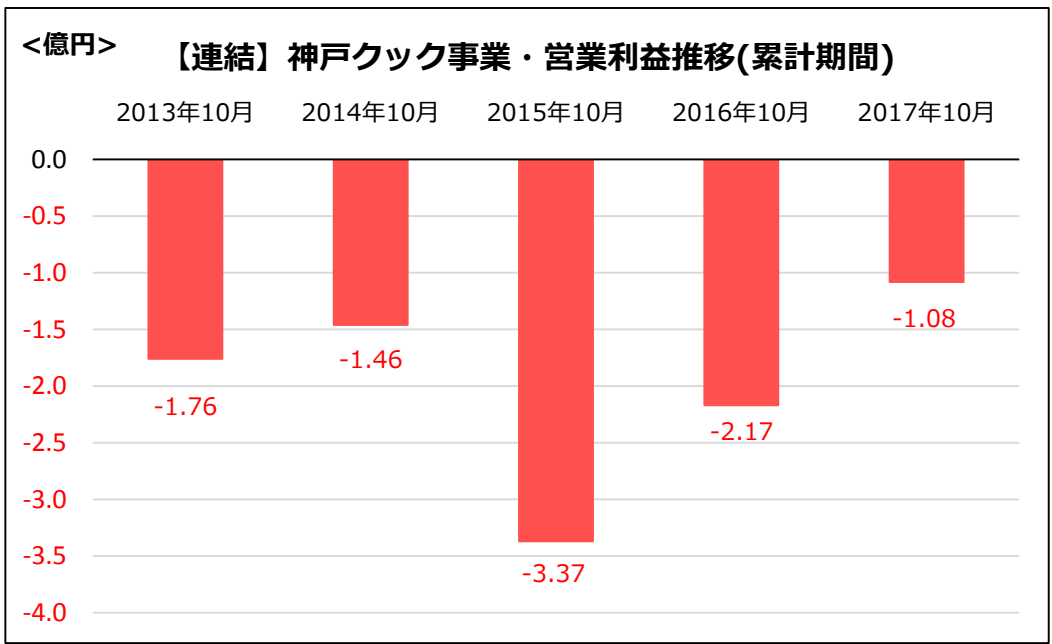
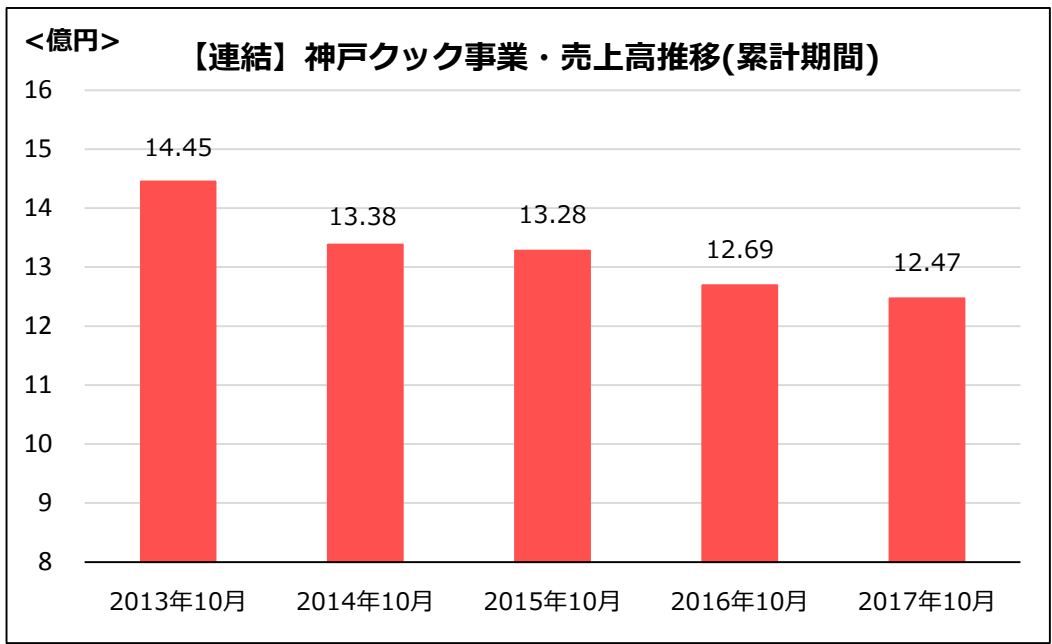
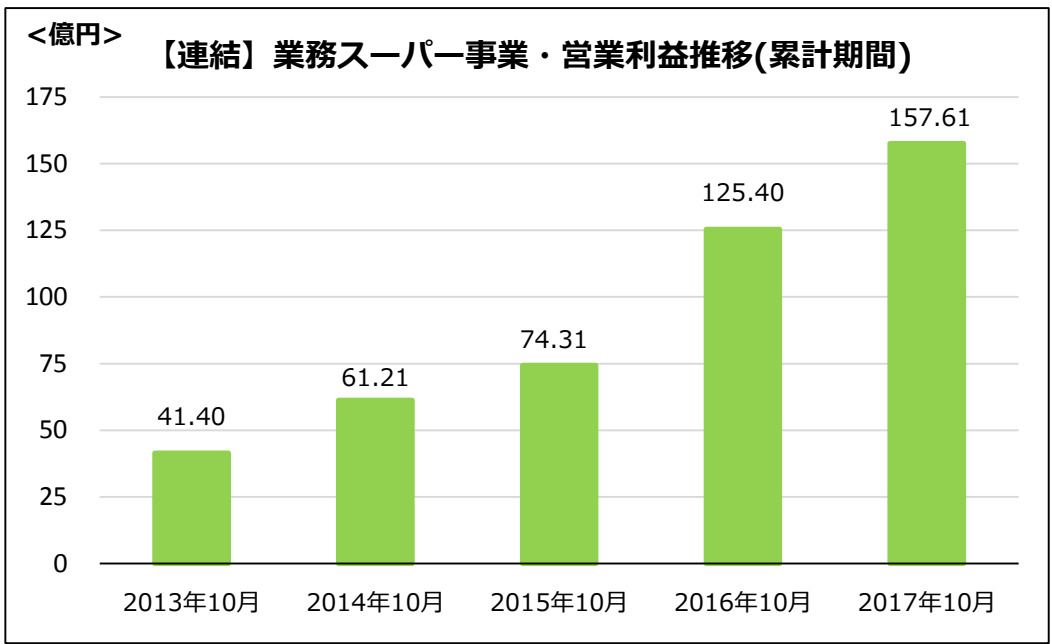
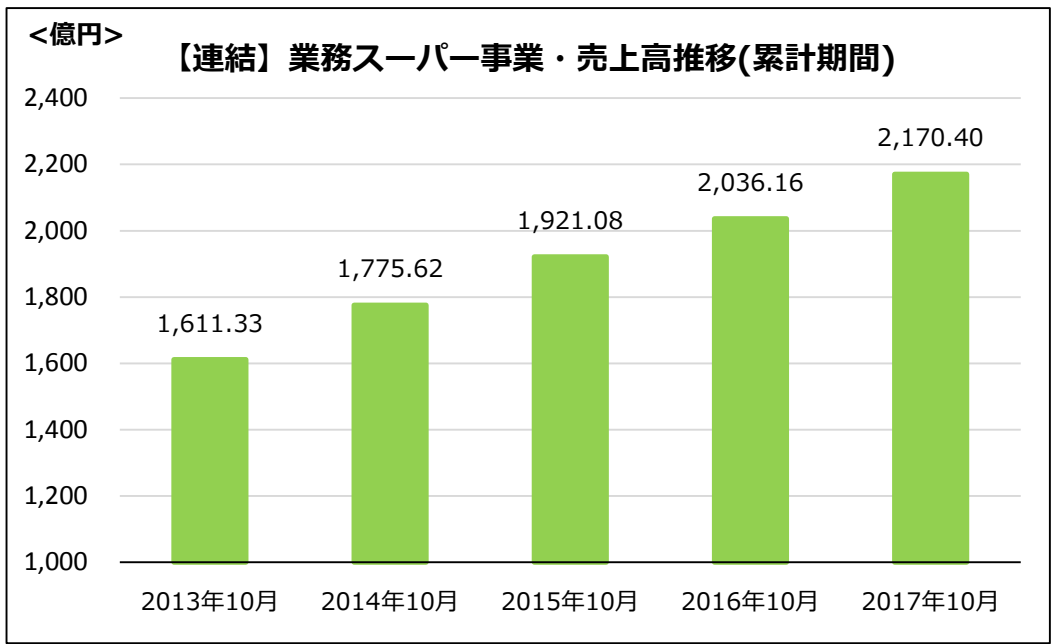
	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
2017年10月期 連結通期目標	百万円 252,400	百万円 13,800	百万円 14,400	百万円 8,500	円 銭 324.81
2017年10月期 連結通期実績	251,503	14,606	15,778	8,346	318.54
達成率	99.6%	105.8%	109.6%	98.2%	98.1%

* 2017年6月8日付の「業績予想の修正に関するお知らせ」のとおり、2017年通期業績予想を上方修正いたしました。

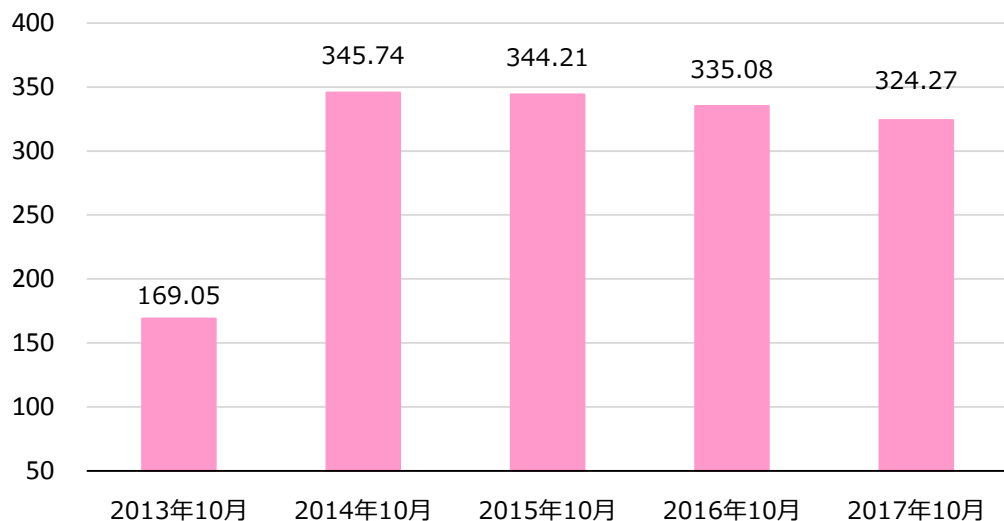


PB商品 売上TOP5

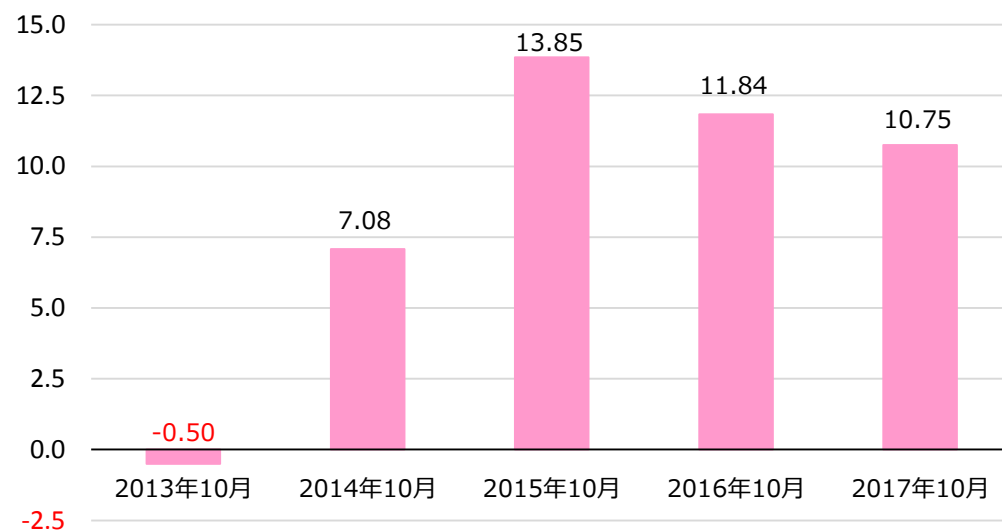
	国内自社工場	自社輸入商品
1	徳用ウインナー 1kg (株式会社肉の太公)	ブラジル産鶏もも正肉 2kg
2	菊川うまい焼酎25% 4L (菊川株式会社)	ベルギー産フライドポテト 1kg (シュースtringカット)
3	上州高原どりもも肉 2kg (株式会社朝びき若鶏)	鶏もも串(加熱済み・タレ無) 22gx50本
4	吉備高原どりもも肉 2kg (株式会社グリーンポーター)	ブロッコリー500g
5	讃岐うどん 200g×5食 (秦食品株式会社)	カットマト缶詰400g



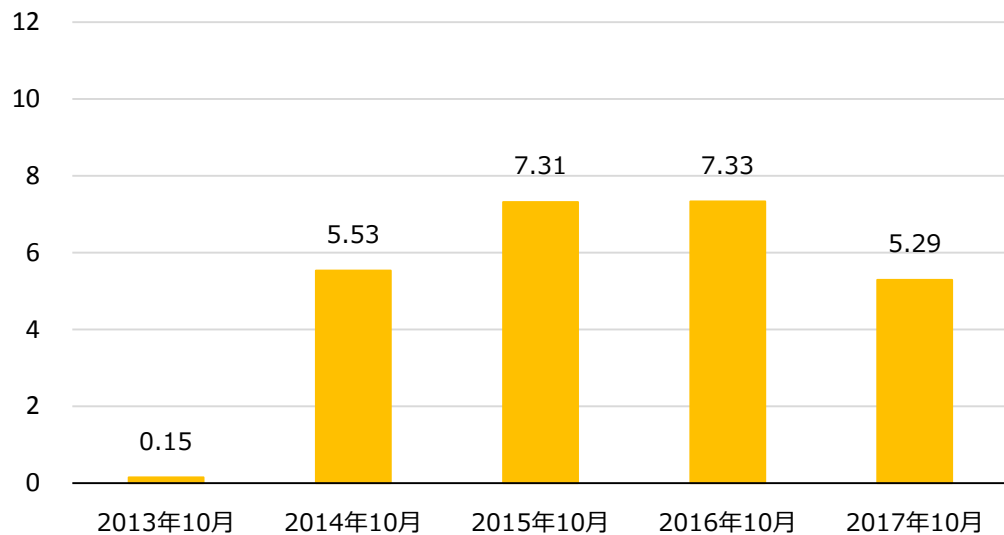
<億円> 【連結】クックイノベーション事業・売上高推移(累計期間)



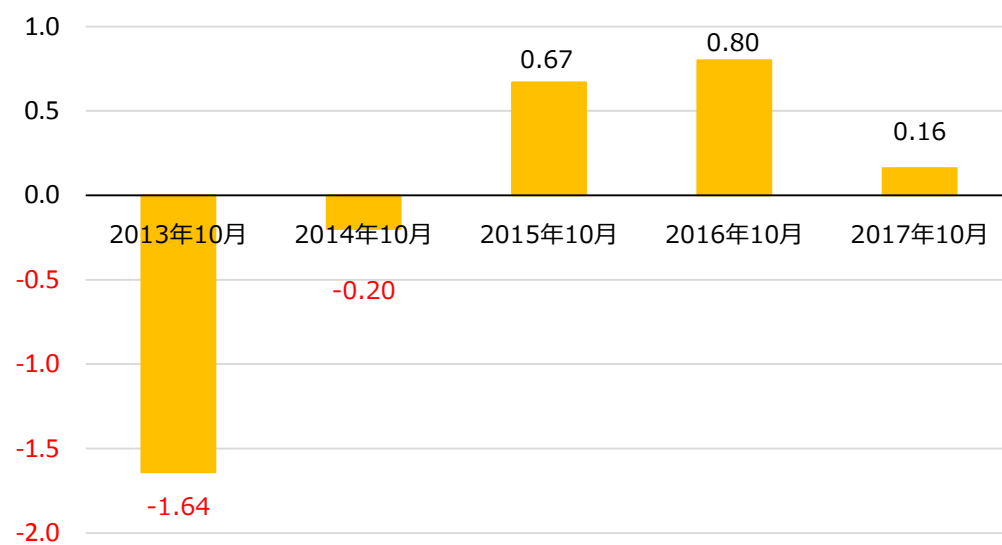
<億円> 【連結】クックイノベーション事業・営業利益推移(累計期間)



<億円> 【連結】エコ再生エネルギー事業・売上高推移(累計期間)



<億円> 【連結】エコ再生エネルギー事業・営業利益推移(累計期間)

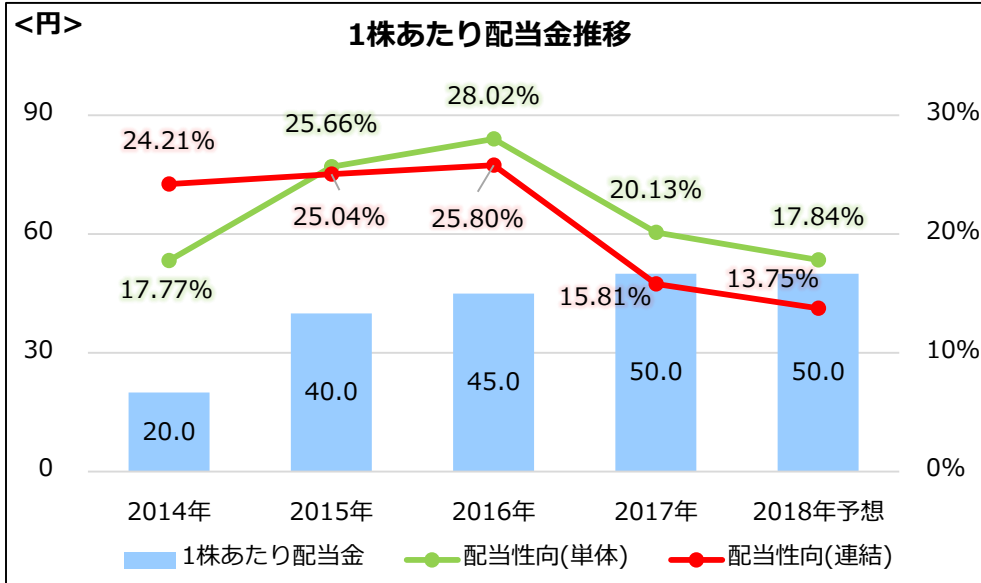


配当金推移

当社は株主様に対する利益還元を重要な経営課題の一つとして認識しております。配当性向の目標値は定めておりませんが、事業拡大のための資金を確保しつつ、経営成績に応じた利益配分を行うことを基本方針としております。

2017年10月期は、例年通り年1回の期末配当で、1株あたり50.00円を実施する予定です。

※2015年2月及び11月にそれぞれ1:2の割合で株式分割を実施しておりますので、2015年以前の配当金は株式分割を考慮した金額となっております。



株主優待制度

毎年10月31日を基準日とし、当社株式を100株以上保有の株主様に、全国の業務スーパー各店でお使いいただける「業務スーパー商品券」をお届けしております。株主優待をきっかけに業務スーパーをご利用いただき、当社の主力事業である業務スーパーの魅力を支株主様によりよく知っていただきたいと考えております。

保有株式数	優待の内容
100株以上500株未満	業務スーパー商品券3,000円分
500株以上1,000株未満	業務スーパー商品券10,000円分
1,000株以上	業務スーパー商品券15,000円分

※ご希望の株主様には、商品券と引換えに額面相当のPB商品詰め合わせをお送りしております。



業務スーパー商品券



PB商品(3,000円分の商品例)

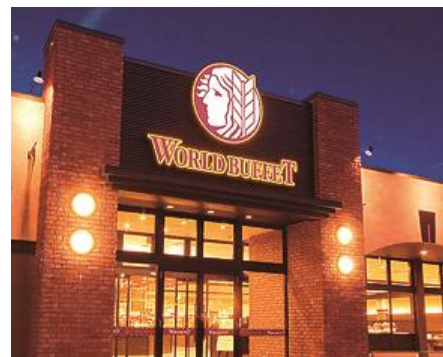
業務スーパー事業

当社売上の約8割を占める主力事業です。
業務スーパー F C本部としての売上、加盟店への卸売などの他、グループの食品加工工場の損益もこのセグメントに分類されます。



神戸クック事業

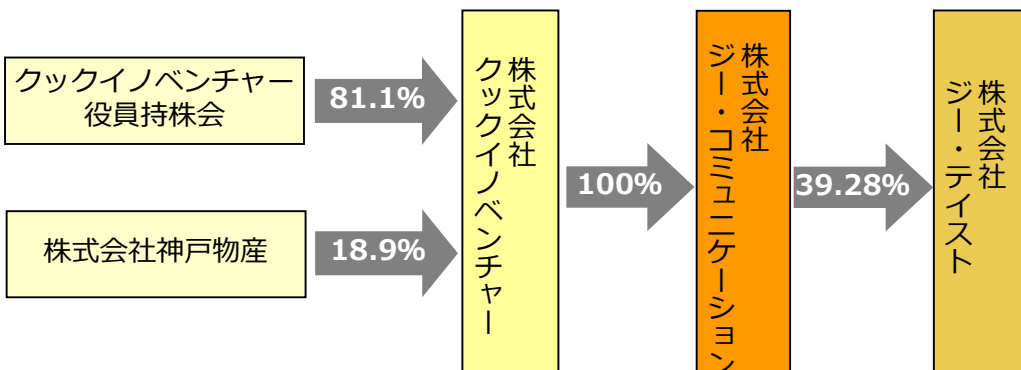
当社が主体となり直営、または F C本部として行っている中食・外食事業です。
惣菜店「Green's K」やビュッフェレストラン「神戸クック・ワールドビュッフェ」「Green's K 鉄板ビュッフェ」がこのセグメントに分類されます。



クックイノベンチャー事業

当社連結子会社であるジー・コミュニケーショングループが運営する外食事業や教育事業などが当セグメントに分類されます。
中でも、株式会社ジー・テイスト（東証 JASDAQ:2694）が運営する外食事業が主な事業です。

相関図



エコ再生エネルギー事業

太陽光発電事業を中心とした再生可能エネルギー事業です。現在は地熱発電も開始しており、2018年には木質バイオマス発電の売電を開始する予定です。



その他

輸入食品店「ガレオン」と観光事業がその他に分類されます。
現在、「ガレオン」では、直営店舗と F C店舗を展開しておりますが、今後は F C展開に注力していく予定です。



第一次産業

農業

日本国内に広大な土地を所有し、北海道では大型農機を使用した日本最大規模の農場で、主にじゃがいもやかぼちゃ、にんじん等の作物を中心に、栽培から収穫、出荷までを一貫して行っております。

また、収穫された作物の一部を国内の自社工場で原材料としても使用する取り組みも行っております。いつ、どんな農薬・肥料をどれだけ使用したのか、「食のトレーサビリティ」を明確にする最も重要な役割を担っております。



水産業

宮城県石巻市で2隻の漁船を所有し、漁業を行っております。東日本大震災の復興支援も兼ねて、水揚げした魚介類は現地の市場に卸しております。



養鶏業

岡山県のグリーンポートリーにて「吉備高原どり」、群馬県の朝びき若鶏にて「上州高原どり」の養鶏を行っております。

処理された鶏を、当社独自の温度管理と菌数管理により、新鮮なまま24時間以内に一部の業務スーパーに出荷しております。



第二次産業

国内外の自社工場

神戸物産むかわ工場
大連福来休食品有限公司
神戸物産（安丘）食品有限公司
株式会社オースターエッグ
株式会社ターメルトフーズ
株式会社ソイキューブ
秦食品株式会社
株式会社マスゼン
株式会社肉の太公
株式会社麦パン工房
宮城製粉株式会社
株式会社エコグリーン埼玉

株式会社グリーンポートリー
珈琲まめ工房株式会社
ほくと食品株式会社
豊田乳業株式会社
株式会社富士麺業
関原酒造株式会社
菊川株式会社
株式会社朝びき若鶏

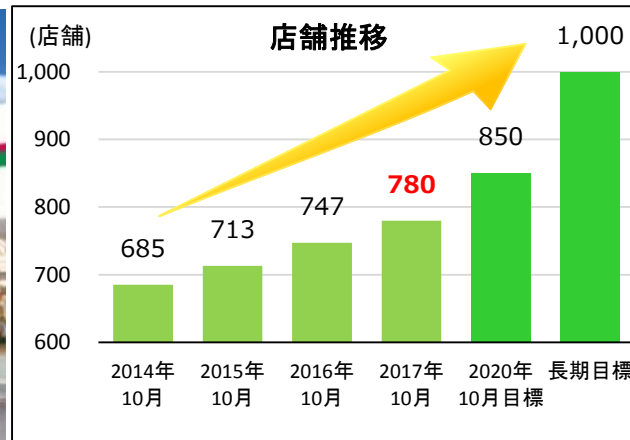
合計 20社 23工場



国内自社食品工場数 日本一

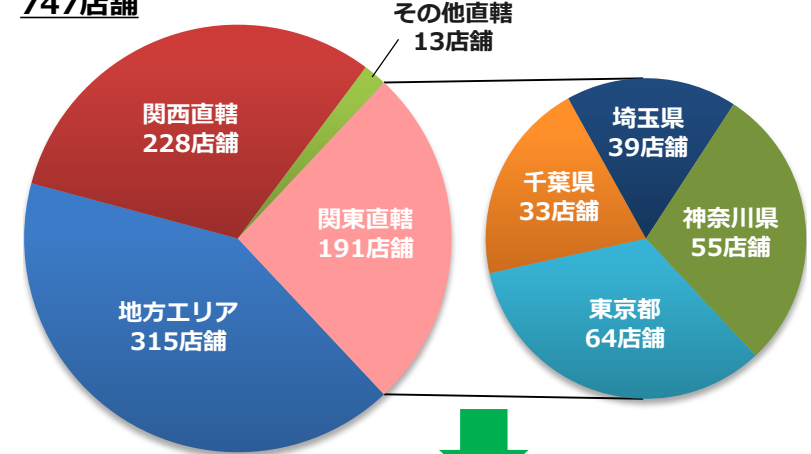
当社はこれまで、日本国内において自社食品工場の増強を図って参りましたが、その結果、日本国内での100%出資の食品工場所有数は21工場となり、食品小売業界で「日本一」(※)になりました。

※大手調査機関により、食品小売業界で当社より売上規模が大きく、且つ100%出資の国内食品工場を所有している会社を対象として2014年8月に調査



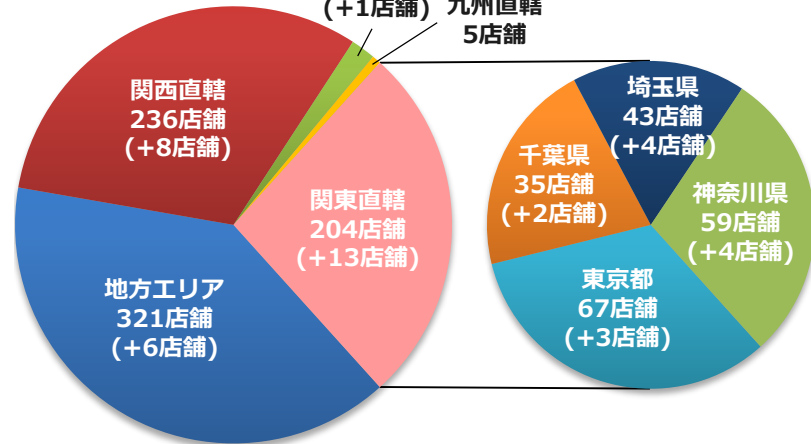
2016年10月末
747店舗

地域別・店舗数



2017年10月末
780店舗 (+33店舗)

地域別・店舗数



- 関東直轄：東京都・千葉県・神奈川県・埼玉県
- 関西直轄：大阪府・京都府・兵庫県（淡路島除く）・奈良県・和歌山県・滋賀県
- 九州直轄：福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県
- その他直轄：北海道
- 地方エリア：上記以外の県

※2017年4月1日より、これまで地方エリアであった九州地方（一部県を除く）を直轄エリアといたしました。

類を見ない販管費の低さ

業務スーパーでは徹底的な「ローコストオペレーション」を実施することで約14%という圧倒的な販管費の低さを実現し、商品の販売価格を押さえながらも店舗に利益が残る仕組みを構築しております。

例えば、人件費を削減するために「ダンボールのまま商品を陳列する」「冷凍ケースや陳列棚を大きめの特別サイズにし、一度に商品一箱全てを品出しできる」「発注などをシステム化し、データを自動処理する」といった工夫を行っております。



オリジナル商品の強化

国内の自社食品加工工場数は21工場となり、その所有数は日本一(※)の規模です。そこで製造される業務スーパーにしかない品質と価格のオリジナル商品は、多くのお客様から支持されております。

また、約40ヶ国から直輸入している「世界の本物」の食品は、世界各国の本場の味をリーズナブルにご家庭でも味わっていただけると、大変好評です。



※大手調査機関により、食品小売業界で当社より売上規模が大きく、且つ100%出資の国内食品工場を所有している会社を対象として2014年8月に調査

順調に店舗を拡大し、777店舗を達成

業務スーパーは、2000年に兵庫県三木市でF C第1号店をオープンし、2017年9月に店舗数777店舗を達成することができました。

多くの食品スーパーが経営に苦戦する中、業務スーパーは商品の安さや品質、オリジナリティなどがお客様に支持され、順調に店舗数を拡大することができました。既存店への出荷実績も通期で前年実績を上回る堅調さを維持しております。

今後も業務スーパーの魅力をお客様に周知するため、セールなどの施策を効率よく実施してまいります。



セールポスター



セールのぼり



テレビCMを活用した新規顧客の獲得

「777店舗達成記念セール」のテレビCM内容



2017年9月から10月にかけて実施した「777店舗達成記念セール」では、販促施策としてテレビCMを実施いたしました。鍋の素77円（税別）など、他社スーパーを圧倒する価格の商品を打ち出し、業務スーパーの強みを多くの方に伝えることで、業務スーパーの認知度をさらに高め、新たなお客様にご利用いただき、業績を拡大してまいります。

【業務スーパーへの出荷実績(前年比) : %】

		2017年10月期														
		11月	12月	1月	2月	3月	4月	上期	5月	6月	7月	8月	9月	10月	下期	通期
直轄エリア	既存店	108.0	100.2	100.1	100.6	105.4	99.7	102.3	104.5	104.0	100.4	104.5	103.7	101.6	103.1	102.7
	全店	112.2	103.3	103.9	104.4	110.2	105.5	106.5	110.0	109.4	106.1	110.1	109.5	107.0	108.6	107.6
全国*	全店	112.1	103.2	103.9	103.5	107.6	103.7	105.6	108.9	107.8	105.2	109.3	108.6	106.1	107.6	106.6

* 全国は直轄エリア+地方エリア店舗への商品出荷実績となります。



GALLEON

【新しいお客様の取り込み】

業務スーパーでは世界各国の輸入品を扱っておりますが、中には調理方法のわかりにくいものや、業務スーパーのお客様の需要とマッチしないものがございました。ガレオンでは輸入食品を求めてご来店いただく方が多く、業務スーパーとは異なるお客様を取り込むことに成功しております。

【都市部への出店】

ガレオンは業務スーパーよりも小型店舗であるため、これまで業務スーパーでは出店しにくかった駅ナカやショッピングモールなど、都市部への出店も可能です。

【ガレオンと業務スーパーの相乗効果】

ガレオンの店舗が増え、スケールメリットが生まれることで、その商品を業務スーパーでも扱えるようになり、業務スーパーの品ぞろえの強化にもつながります。

店名の「ガレオン」は、16世紀半ばから18世紀に大型商船として世界中を航海し、活躍した帆船の型式「ガレオン」に由来しております。

ガレオンではその帆船のように世界の名物や魅力的な食品をお客様にお届けしております。

2015年12月17日 オープン

直営店舗
元住吉店
(川崎市中原区)



2016年3月24日 オープン

直営店舗
クイーンズスクエア横浜店
(横浜市西区)



2016年11月19日 オープン

FC店舗
大雄山ヴェルミ店
(神奈川県南足柄市)



2017年12月1日 オープン

FC店舗
モリシア津田沼店
(千葉県習志野市)



輸入品の他にも日本各地の名産品などを取りそろえております。また、お店によってお菓子のつめ放題やカフェの併設など、新しい取り組みを行っております。

神戸クック・ワールドビュッフェ

店舗数：16店舗（2017年10月末現在）



神戸クック・ワールドビュッフェの強さ

神戸クック・ワールドビュッフェは、250席以上のゆったりとした空間で、世界各国の様々なお料理を召し上がっていただけるビュッフェスタイルのレストランです。店内には臨場感あふれるライブキッチンもあり、「できたて」「おいしい」「楽しい」を五感で感じていただけます。

神戸物産グループの仕入力や独自の食品加工ノウハウを駆使することで、クオリティの高いオリジナルメニューをリーズナブルな価格で提供することが可能で、お客様にも大変お喜びいただいております。



積極的な新規出店を計画

神戸クック・ワールドビュッフェは、お客様の満足度や利益率をさらに向上させるため、一時新規出店を見合わせて、メニューの改廃やサービスの向上に注力しておりました。その業態改善が成功したことで、2017年より積極的な店舗拡大にかじを切り、7月28日には群馬県に関東地方第1号店となる「伊勢崎店」をオープンいたしました。

それ以降も、11月28日には大阪府に大阪府第1号店となる「リノアス八尾店」、12月1日には静岡県に東海地方第1号店となる「ザザシティ浜松店」をオープンするなど、積極的な新規出店を進めております。また、オープンの様子は地元のメディアに取り上げられるなど、非常に注目を集めております。今後も各地で新規出店の予定があり、神戸クック・ワールドビュッフェを中心に神戸クック事業の業績拡大を進めてまいります。

神戸クック事業のその他の業態



Green's K

店舗数：9店舗（2017年10月末現在）

自社工場で製造された専用の食材などを店舗で組み合わせて調理し、出来立ての惣菜やお弁当を提供する惣菜店です。



Green's K 鉄板ビュッフェ

店舗数：2店舗（2017年10月末現在）



ビュッフェとセルフクックが融合した新感覚レストランです。お客様ご自身で自由にメニューをアレンジいただけます。



ジー・コミュニケーショングループとの業務提携



神戸物産グループは、2013年にジー・コミュニケーショングループと業務提携いたしました。当社が取り扱う輸入食材や自社工場の商品をジー・コミュニケーショングループが運営する外食店舗約700店舗に提供することで、当社はよりスケールメリットが生まれ、食材を無駄なく供給することが可能になります。また、ジー・コミュニケーショングループは安定した仕入れに繋がることになり、シナジー効果を生み出しております。

当社は食の製販一体体制を強化するには第三次産業の拡大が必要不可欠だと考えております。この業務提携により業務スーパー以外の第三次産業を拡大することが食品製造や商品仕入の拡大につながり、神戸物産の強さをさらに強固なものにすると考えております。



業態：十六穀米オムライス&ドリア専門店
店名：おむらいす亭



業態：回転寿司屋
店名：平禄寿司



業態：総合居酒屋
店名：とりあえず吾平



業態：総合居酒屋
店名：村さ来



業態：焼き肉屋
店名：肉匠坂井



業態：ちゃんこ鍋屋
店名：ちゃんこ江戸沢

太陽光発電

温室効果ガスであるCO₂の削減、将来的なエネルギー供給の安定化等の観点から、2012年11月より太陽光発電事業を開始いたしました。

2017年10月末現在、北海道で4か所、兵庫県で4か所、福岡県で1か所、滋賀県1か所、大阪府1か所、徳島県1か所、茨城県1か所の計13か所で約**15.9MW**の発電を行っております。



●稼働中発電所（北海道4か所、兵庫県4か所、福岡県1か所、滋賀県1か所、大阪府1か所、徳島県1か所、茨城県1か所）

発電所名	出力	初期投資額	売電額（想定）	投資回収年数
	(MW)		年額	
クック屋根太陽光発電所（兵庫県）	(29kw)	1,000万円	100万円	9年1か月
稲美町第一太陽光発電所（兵庫県）	1.0	2億8,500万円	4,300万円	7年5か月
稲美町第二太陽光発電所（兵庫県）	2.4	6億4,700万円	1億500万円	7年8か月
稲美町第三太陽光発電所（兵庫県）	1.1	3億3,200万円	4,600万円	8年4か月
むかわ町汐見太陽光発電所（北海道）	0.2	5,300万円	600万円	11年10か月
むかわ町大成太陽光発電所（北海道）	0.6	1億6,300万円	2,500万円	10年3か月
上毛町太陽光発電所（福岡県）	0.9	2億7,400万円	3,500万円	9年2か月
芦別・太陽光発電所（北海道）	2.2	6億5,600万円	8,200万円	11年6か月
平取町太陽光発電所（北海道）	0.4	1億1,800万円	1,500万円	11年3か月
竜王町太陽光発電所（滋賀県）	0.5	1億2,500万円	1,500万円	10年11か月
富田林第二太陽光発電所（大阪府）	2.1	5億9,300万円	7,800万円	11年5か月
阿波太陽光発電所（徳島県）	2.1	5億7,600万円	7,500万円	11年4か月
行方太陽光発電所（茨城県）	2.4	7億3,400万円	8,600万円	12年8か月
合 計	15.9	45億6,600万円	6億1,200万円	-

地熱発電

2017年7月より売電を開始しております。

日本は世界で有数の地熱資源大国で、地熱は化石燃料（石炭、石油、天然ガス等）の埋蔵量が極めて少ない日本にとって、世界に誇れる地下資源です。

また、地熱発電は再生可能エネルギーの中でも天候・昼夜に左右されず、安定した発電が可能で、発電効率が良く、なおかつ地球温暖化の原因とされている二酸化炭素の排出が少ない、エコロジーなクリーンエネルギーです。

当社は、この地熱を使って地球にやさしい発電事業を行っていきたいと考えております。



大分県玖珠郡九重町：自社地熱井

木質バイオマス発電

北海道白糠郡白糠町では、間伐材等の未利用木材を活用した木質バイオマス発電の準備を進めております。

2017年3月に発電所の起工式を行い、現在は発電所の建設中で、2018年6月の売電開始を目指し、計画を進めております。



北海道白糠郡白糠町：自社木質バイオマス発電所建設の様子



観光事業

観光果樹園・農園

北海道森町で、地熱エネルギーを活用した観光事業に取り組んでおります。化石燃料を使わずに地熱（温水）でハウス内を温める温水エコハウスと、その周辺の露地で果樹を栽培しており、北海道の自然や魅力を家族で楽しんでもいただける観光果樹園を計画しております。

温水エコハウス内では、北海道では珍しい青パパイヤやマンゴーなどの南国果樹を育成しており、森町の新しい観光資源としても注目を集めております。



北海道茅部郡森町：自社温水エコハウス



ハウス内の様子（パパイヤ）

当社グループの商品の魅力やオリジナリティは、多くのマスメディアからも注目されており、引き続き様々な取材のお話しをいただきました。中には、業態や商品だけではなく、当社の宣伝車両「水ようかんカー」の取り組みなど、様々な角度から紹介していただいております。また、マスメディアだけではなく、一般のお客様がSNSやブログで話題にさせていただくことも増えております。

放映・掲載日	媒体名	種別	取材対象	概要
3月19日 3月26日	Abema TV 「違う de SHOW！」	インターネット テレビ	業務スーパー	各社のお菓子を食べ比べる企画で、当社のポテトチップス（オリジナル）とドイツ産ミルクチョコレートを紹介。ミルクチョコレートはコストパフォーマンスの良さで高評価。
3月28日	光文社 月刊「Mart」5月号	雑誌	業務スーパー	読者の中でヒットしているものを紹介する企画で、業務スーパーを愛用している読者が「手軽に楽しめるキャビア」として「カペリンのキャビア」を推薦。記事では商品の使い方も紹介。
5月20日	KADOKAWA 「横浜walker」6月号	雑誌	ガレオン 大雄山ヴェルミ店	神奈川県内のハイキングコースを紹介する企画で、ハイキングにも持っていけるテイクアウトメニューとして、ガレオン大雄山ヴェルミ店のベークサンドを紹介。
7月21日	群馬テレビ 「GTVニュース」	テレビ	神戸クック・ ワールドビュッフェ 伊勢崎店	グランドオープンに先駆けて行われたレセプションパーティーの様子と、神戸クック・ワールドビュッフェの概要を紹介。
7月24日	TBSテレビ 「Nスタ」	テレビ	業務スーパー	「激安スーパーの裏側」というテーマで、業務スーパーの人気の秘密や激安の秘密を店舗や工場、商品開発での現場取材を通して紹介。
8月2日	ベネッセコーポレーション 「サンキュ！」9月号	雑誌	業務スーパー	「夏レジャーの友」をテーマに、業務スーパーのマストバイ商品、品質へのこだわりや安さの秘密、安心&安全への取り組みなどを紹介。
8月10日	講談社ビーシー 「ベストカー」	雑誌	宣伝車両 水ようかんカー	社用車（営業車）の紹介企画で、個性的でインパクトの大きい社用車として紹介。
8月17日	読賣テレビ 「情報ライブ ミヤネ屋」	テレビ	業務スーパー	「激安店特集」でローコストオペレーションや大容量の商品、牛乳パックシリーズ、リッチリーズケーキなどのアイディア商品を安さの秘密と一緒に紹介。
9月25日	テレビ東京 「車あるんですけど…？」	テレビ	業務スーパー	プロ御用達の店を巡る企画で、大容量や安さ、自社製造していること、冷凍野菜の特長などを紹介。

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
2017年10月期 連結通期実績	百万円 251,503	百万円 14,606	百万円 15,778	百万円 8,346	円 銭 318.54
2018年10月期 連結通期予想	265,000	15,000	14,800	9,600	363.66
前年比(%)	105.4%	102.7%	93.8%	115.0%	—

中期経営計画

	売上高	営業利益	1株当たり 当期純利益	ROE	自己資本比率	D/Eレシオ
2017年10月期 連結通期実績	百万円 251,503	百万円 14,606	円 銭 318.54	% 41.2	% 16.6	倍 3.4
2020年10月期 連結通期目標	285,000	15,000	300円以上	每期20.0%以上	20.0%以上	2.0倍以下

- ・国内業務スーパーの店舗数を2017年10月末の780店舗から850店舗への増加を目指します。
- ・業務スーパー事業のセグメント売上高を2017年10月期の2,186億円から2,450億円への増加を目指します。
- ・神戸クック事業の外食・中食店舗を2017年10月末時点の27店舗から40店舗への増加を目指します。
- ・食品工場のM&Aを推し進め、国内自社工場によるPB商品の増強を図ります。
- ・PB商品の開発を強化し、2017年10月期で620億円の取扱高を、2020年10月期で750億円に高めます。

- 本資料には、2017年12月15日現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれます。
- 経済環境の変動など不確定要因により実際の業績が記載の予想と異なる可能性がありますのでご了承ください。
- 本資料は株式の購入の勧誘・奨励を目的としたものではありません。

～本資料に関するお問い合わせ先～

株式会社神戸物産

経営企画部 IR・広報 花房・柴田

TEL：079-458-2848

FAX：079-454-2300